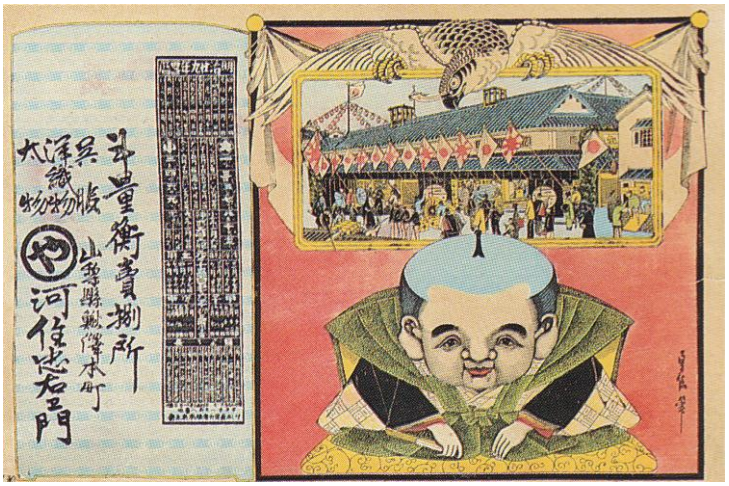
【資料】忠右衛門 100年の歴史





舟で荷を運んだ呉服屋から、浜松の100年へ。

私たちの商いは、富士川のほとりの呉服屋から始まりました。100年のあいだ、時代が変わっても、着物を一枚ずつ見て、次の人へ届けてきました。

明治
c.1890s

山梨・鰍沢の「まるや呉服店」

呉服商と量衡売捌所を営み、富士川の舟運も手がけていました。流通の玄関口として栄えた鰍沢では、船頭たちの「まるや節」が川に響いていたといいます。

明治26年の正月売り出しの広告が、今も残っています。広告には「河住忠右衛門」の名が刷られています。



写真：鰍沢「まるや呉服店」（忠右衛門 所蔵）

大正15年
1926

河住忠夫が浜松で創業

新品も中古も扱う市場と店を開きました。これが私たちの創業です。

店名の「忠右衛門」は、まるや呉服店の23代目・河住忠右衛門の名から受け継いだものです。



写真：現在の中央区鍛冶町2-12付近にあった店（忠右衛門 所蔵）

昭和27年
1952

会社を設立

世界恐慌でまるや呉服店は店をたたみましたが、浜松で独立した忠夫の商いは続き、会社になりました。

昭和40年代
1965–

高級京呉服卸として、いちばん忙しかった時代

好景気が続き、店にも倉庫にも反物が山のように積まれ、それでも売れていきました。毎月3と8のつく日に開く市「サンパチかい」はにぎわい、振袖の展示会では入場制限が出るほどでした。

隣は、浜松銘菓の春華堂の本社工場でした。



写真：展示会（1969年）（忠右衛門 所蔵）

昭和56年
1981

「カイ」で目利きを磨く

畳の上に反物を広げ、商人たちが値を競うオークション「カイ」。本場大島の反物が並ぶ場で、一枚の値打ちを見抜く目が鍛えられてきました。



写真：最後のカイ（忠右衛門 所蔵）

令和5年
2023

Colorful Studio へ事業承継

袴田久美子が代表となり、リサイクル着物の専門店として新しい歩みを始めました。家庭で眠り、捨てられていく着物を、もう一度着る人のもとへ届けます。



写真：いまの忠右衛門（2026年・忠右衛門 所蔵）

2026
100th

創業100周年。そして、101年目へ。

FY2027、忠右衛門は「第二創業」の年を迎えます。いまも、目利きは手の中にあります。



目利きは、いまも手の中に。



一枚ずつ選び、色で並べる。



リメイクで、着物の次の使い方を。



小物まで、装いをまるごと提案する。

写真：いまの忠右衛門（2026年・忠右衛門 所蔵）